白頭風景
白頭風景

白頭風景

朝鮮民主主義人民共和国・外国文出版社
チュチェ111(2022)

白頭山

朝鮮の北辺にある両江道三池淵市には、朝鮮で一番高い白頭山がそびえている。

白頭山の標高は2750mで、今から2000万年前に地中の溶岩が噴出して出来た火山である。

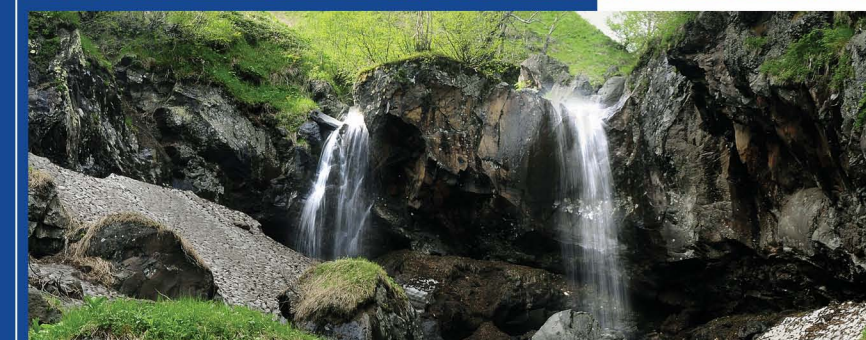
白頭山の山頂には海抜2500m以上の将軍峰、嚮導峰、ヘッパル峰、飛楼峰、双子虹峰、団結峰、チェビ峰、青石峰、白雲峰、遮日峰などが連なり合い、噴火口の跡にはカルデラ湖である天池がある。

壮観な日の出と朝焼け、四季を通じて千変万化する自然景観を繰り広げる白頭山は、見れば見るほど恍惚で神秘な感じを与える。

白頭山は、5000年の朝鮮民族史の発祥地であり、歳月の流れとともに祖宗の山、革命の聖山として朝鮮人民の心の中に厳かにそびえている。

本書は、朝鮮民族の精神が宿っている白頭山とその周辺の美しい景観をいろいろな常識資料を添えて編集している。

祖宗の山　白頭山

白頭山は自然美と山岳美、壮麗な景観によって
広く知られた朝鮮の名山であり、
朝鮮民族の魂が秘められている祖宗の山である。

白頭山の朝

将軍峰
白頭山で一番高い
将軍峰（標高2750m）

嚮導峰の日の出

白頭山頂から眺めた
白頭山地区の朝

白頭山の嚮導峰に刻まれた
偉大な指導者金正日（キムジョンイル）同志の
親筆「革命の聖山　白頭山
金正日」

嚮導峰にかかった虹

白頭山の吹雪

嚮導峰の吹雪

霧氷に覆われた奇岩

白頭山頂の冬

天池の冬

天池の冬風

白頭山の夕雲

波打つ天池

白頭広野の夕焼け

白頭山の春

天池の雪解け

雪解け季節

白頭山の天池

雪中に咲いたキバナシャクナゲ

天池湖畔の春

雲に覆われた天池

雲上の峰々

天池から眺めた嚮導峰と将軍峰、飛楼峰

白頭山の夏

天池の夏

将軍峰から眺めた
嚮導峰

飛楼峰

ヘマジ峰

白頭山頂の奇岩

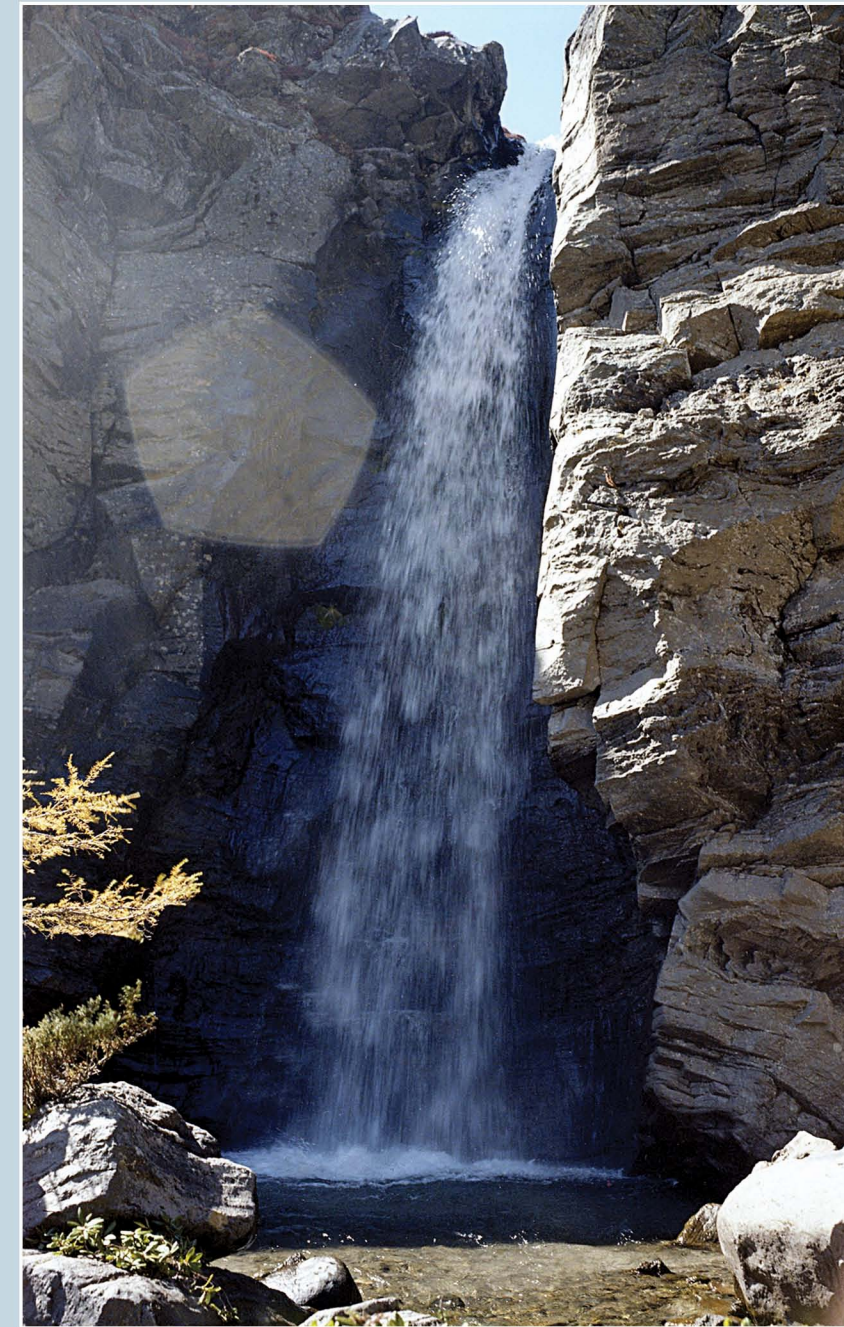
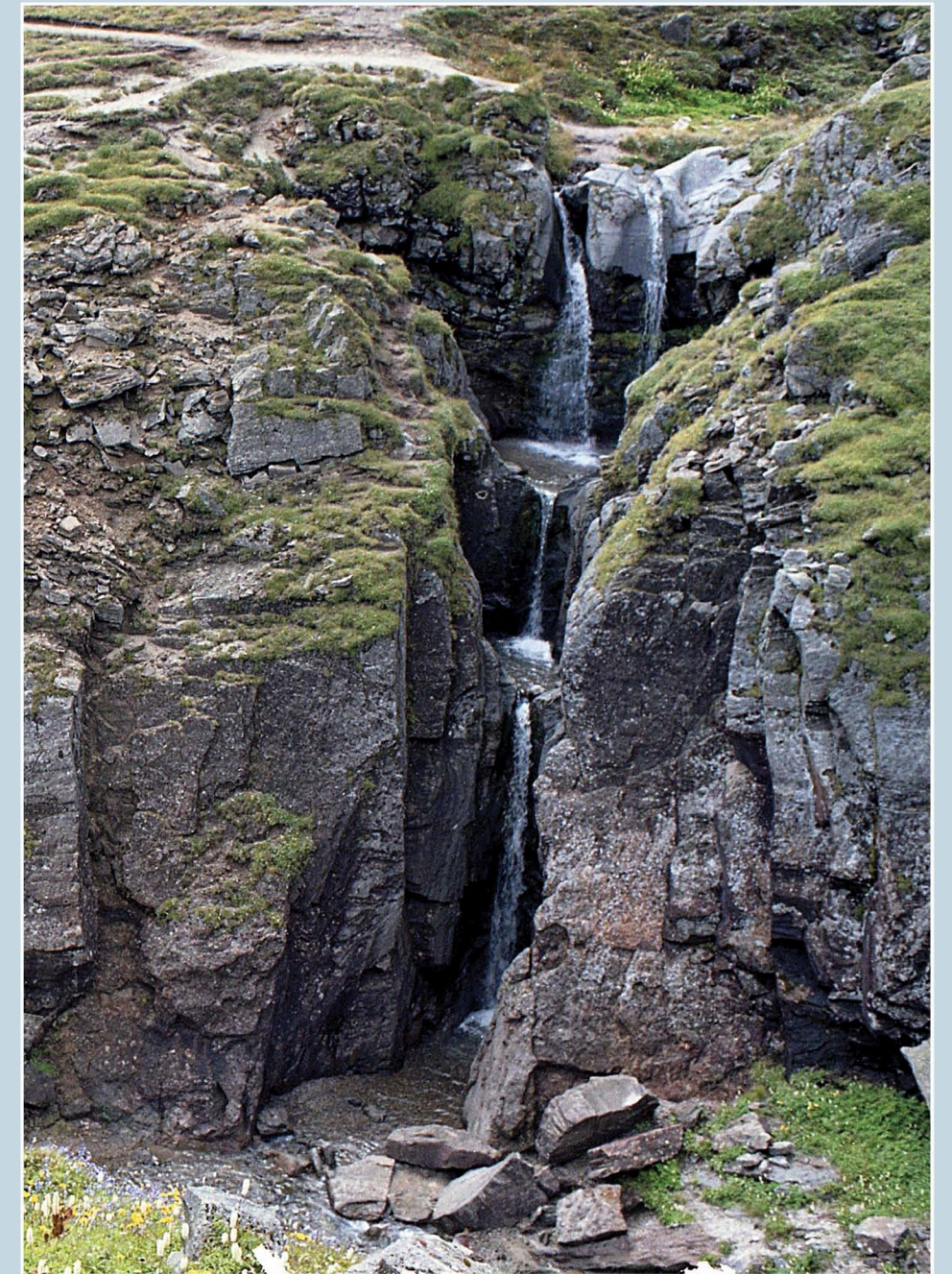
白頭山頂の絶壁

天池の自然の移り変わり

兄弟の滝

白頭の滝

思技文の滝

白頭山の秋

天池の夕焼け

革命の聖山　白頭山

白頭大地は、朝鮮人民の栄えある
抗日革命闘争史が秘められている
大露天革命博物館である。

白頭の革命戦域

偉大な領袖金日成(キムイルソン)同志の遠大な構想と指導によって、1930年代の後半期と1940年代の前半期に白頭山地区には、白頭山密営と、それを中心として獅子峰、熊山、間白山、小胭脂峰、仙五山、無頭峰、鴨緑江沿岸、大角峰、双頭峰などにそれぞれ異なった使命を持つ衛星密営が設置された。

白頭山地区に秘密根拠地が設置された結果、金日成同志の指導の下に日本帝国主義に抗する武装闘争と党創立のための活動、祖国光復会を中心とする反日大衆闘争、全民抗争の準備など朝鮮革命全般を導く中心的指導拠点、基本戦略基地が築かれるようになった。

小白水谷

金日成同志が利用した

白頭山密営の司令部

司令部警護隊員室

小白水谷の大樹林の中には
金正日同志が誕生した
白頭山密営の生家がある。

白頭山密営の生家

正日峰

白頭山天池に源を発して鴨緑江へ流れ込む小白水は、白雪に覆われた冬にも凍らず、日照りが続く真夏にも涸れることがない。

小白水の月夜

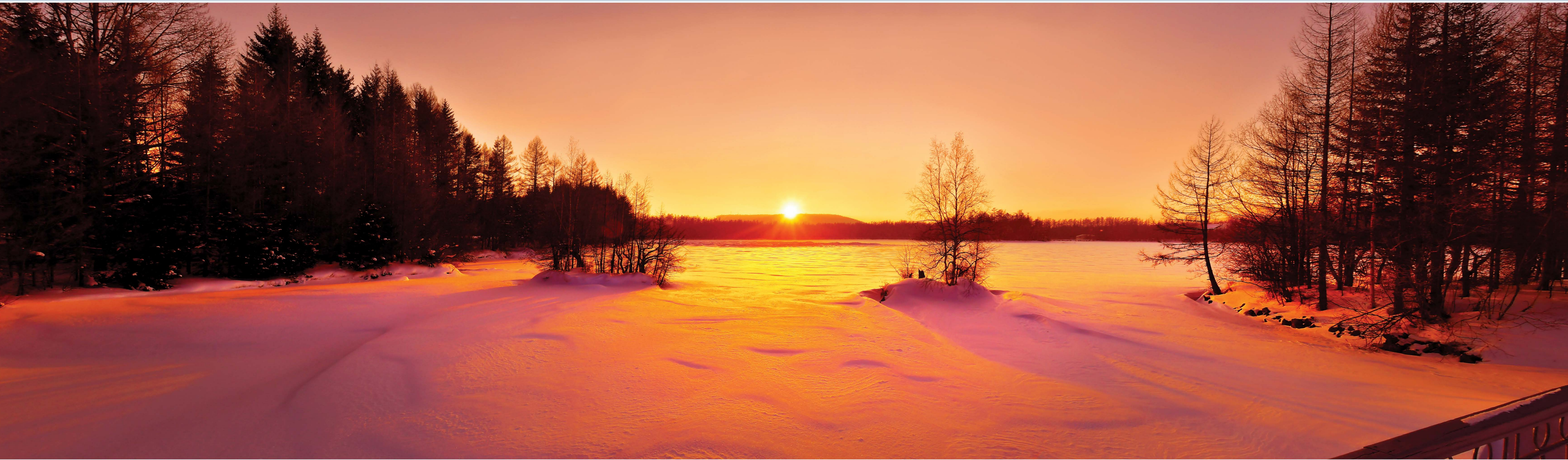
小白水の夏

三池淵大記念碑

抗日武装闘争時期に積み上げた金日成同志の不滅の革命業績と朝鮮労働党の革命伝統を万代に輝かそうとする金正日同志の直接の発起と精力的な指導によって、チュチェ68(1979)年5月、三池淵大記念碑が建立された。

三池淵大記念碑の副主題の彫刻群像『祖国』と『欽慕』

三池淵大記念碑の副主題の彫刻群像『祖国の水』と『進軍』

三池淵の冬

三池淵の夕べ

三池淵

三池淵は、白頭火山が噴出する時に生じた溶岩が、ここを流れていた川を堰き止めて形成された3つの池である。

三池淵の周辺にはチョウセンカラマツ、シラカバ、ダケカンバ、トウシラベ、エゾマツなどの原生林が果てしなく広がっている。

三池淵の秋

新四洞革命戦跡地

茂山地区戦闘勝利記念塔

獅子峰

獅子峰密営

獅子峰の秋

熊山密営

仙五山密営

仙五山の神仙岩

仙五山の秋

火山活動と河川の浸食作用によって形成されたこの奇妙な絶壁は、あたかも1000余の軍勢が整列しているような趣なので千軍岩と呼ばれている。

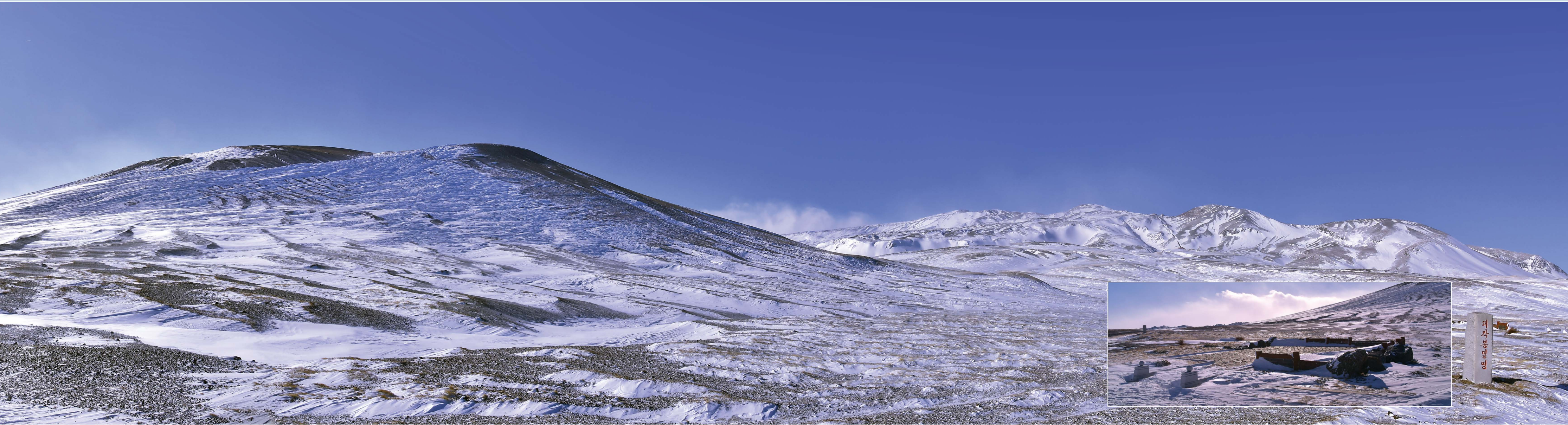
千軍岩

間白山密営

小胭脂峰密営

雪に覆われた小胭脂峰

無頭峰密営

無頭峰の冬

白頭山が眺められる大角峰の麓

ペゲ峰宿営地

ペゲ峰の雪景色

鯉明水の冬

鯉明水の樹氷

南胞胎山

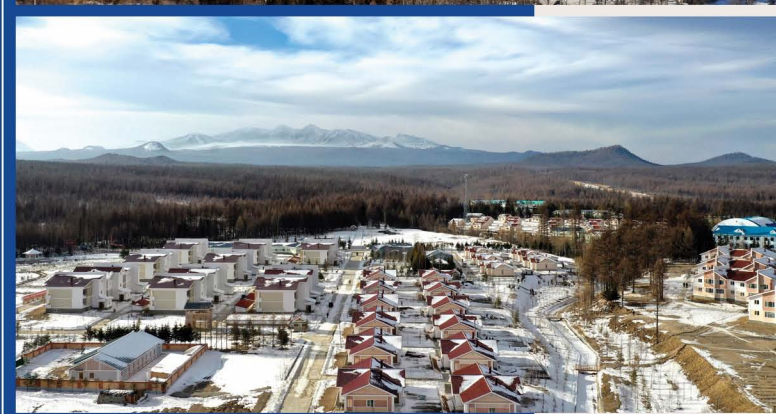
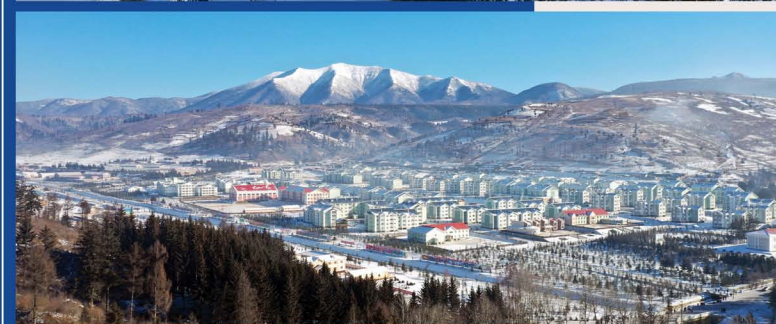
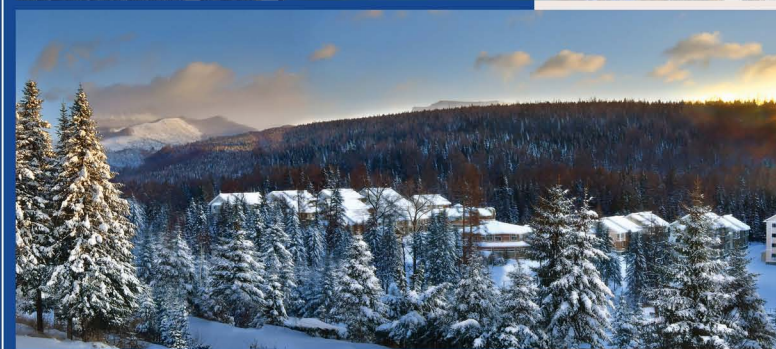
密林の夕べ

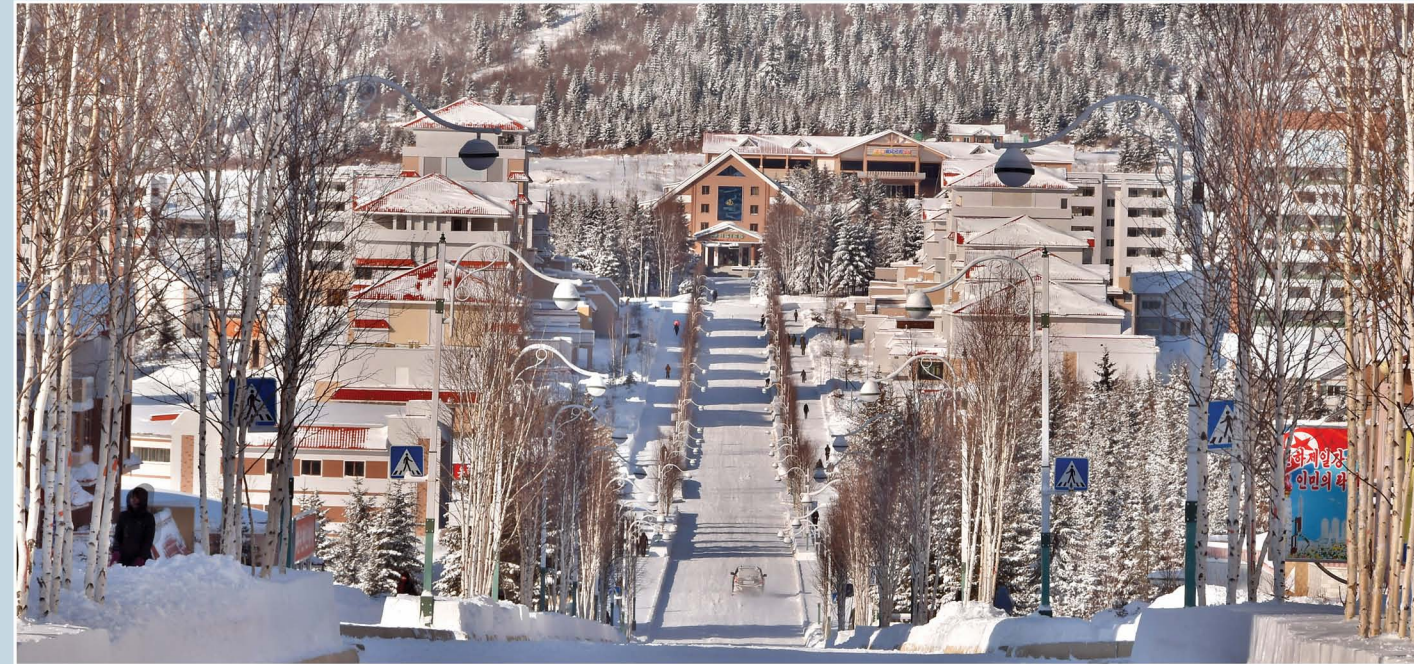
吹雪が荒れ狂う
冬の白頭密林

大紅丹の紅岩

霧の流れる大紅丹が原

白頭大地の山間文化都市

祖宗の山、革命の聖山白頭山がそびえている
両江道の三池淵市が山間文化都市に一新された。

山間文化都市の三池淵市

胞胎洞

白頭山密営洞

鯉明水洞

神武城洞

宝西里

白頭山の歴史と自然地理

白頭山を崇める朝鮮民族の愛国心を見せる『大東輿地図』の
白頭山の部分図（1861年完成）

白頭山の地名と由来

白頭山は5000年の朝鮮民族史の発祥地であり、歳月の流れとともにさまざまな名称で呼ばれてきた。

「白頭山」という名は、四季を通じて谷間に雪と氷が積もり、峰々に軽石が覆われていてつねに白く見えるし、上空に高々とそびえて天下を見下ろす巨人の頭のようだとしてつけられた。

朝鮮の先祖たちは、国中のすべての山脈が白頭山に根を下ろし、三千里国土に伸びているとして白頭山を母なる山、祖宗の山と崇めてきた。

白頭山天池の旧名とその由来

白頭山天池は、自然景観のすべての要素を持っているだけでなく、千変万化の神秘境をなしているため、長い歴史に諸々の伝説を残し、世人の好奇心を引いてきた。

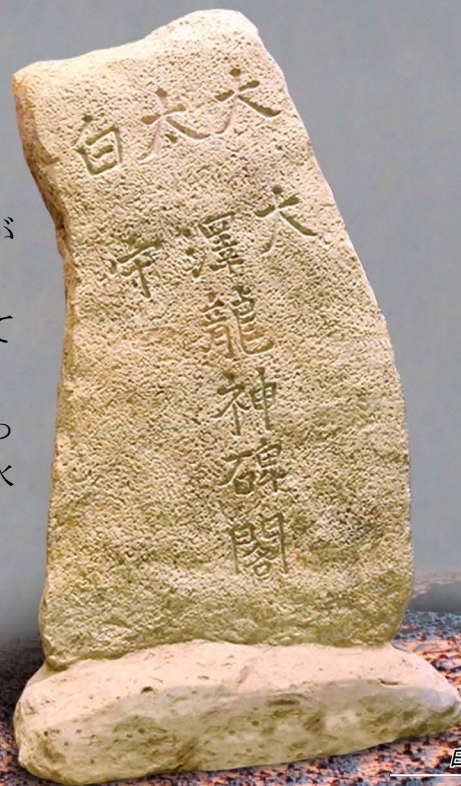
さまざまな旧名と「天池」という名には、高い所にある湖、大きな湖、神秘な湖という意味がこめられている。

白頭山で発掘された昔の碑石「大太白　大沢守　竜神碑閣」

白頭山の将軍峰小盆地にある天池湖畔の白頭温泉附近の岩の上で、昔の碑石が発掘された。碑石は高さ120㎝、幅44～58㎝、厚さ10～11㎝である。

白頭山の火山岩を手入れして建てたこの碑は、白頭山の風雨や雪風にさらされて風化してはいるが、文字はきれいに残っている。

碑文の内容は、白頭山を守る天池の「竜神」に、朝鮮民族を永遠に安らかに暮らせるようにしてほしいと祈願したもので、古くからわが国の先祖たちが天池を永遠に満ち溢れる神秘で美しい湖とみなしてきたことを窺い知ることができる。

この碑石は、朝鮮民主主義人民共和国国宝遺跡第195号に登録されている。

白頭大山脈

総延長　1470km
平均標高　1180m
山　脈　8個

山脈名	長さ	平均標高
白頭山脈	140km	1800m
赴戦嶺山脈	280km	1610m
北大峰山脈	170km	1120m
馬息嶺山脈	90km	1010m
鉄嶺山脈	70km	900m
太白山脈	320km	1040m
小白山脈	310km	860m
智異山脈	90km	940m

白頭大山脈の主な峰々

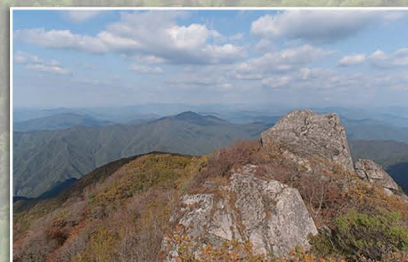
両江道三池淵市　白頭山(2750m)

両江道白岩郡　頭流山(2309m)

江原道川内郡　頭流山(1323m)

江原道洗浦郡　秋愛山(1528m)

江原道淮陽郡　鉄嶺(677m)

江原道(南)麟蹄郡　雪岳山(1708m)

忠清北道丹陽郡　小白山(1439m)

慶尚南道咸陽郡　智異山(1915m)

白頭山の地理

白頭山は、ユーラシア大陸と太平洋の間の北部朝鮮と中国の境界にあり、両江道三池淵市に属する。

白頭山の地形

白頭山の特異な自然景色は、数回にわたる火山の噴出とその進化・発展の過程に形成された。

白頭山天池は、白頭火山の噴火口に水が溜まって生じたカルデラ湖である。

白頭山頂には、海抜2000m以上の峰々が60°を越える急傾斜の絶壁を成してそびえ、屏風のように天池を取り囲んでいる。

白頭山の双子虹

白頭山では双子虹がしばしば見られる。雨がしのつくほど降ってもまたたくうちに止み、雨雲は白いむら雲に変わってあちらこちらへ漂う。

そんな時に天池の上に虹が二重に重なって現れるのである。

白頭山の双子虹はそれを眺める位置の違いにより、天池から立って他端は連峰に届きもすれば、二つの峰にまたがってできるなど、特異な模様で現れるものもある。

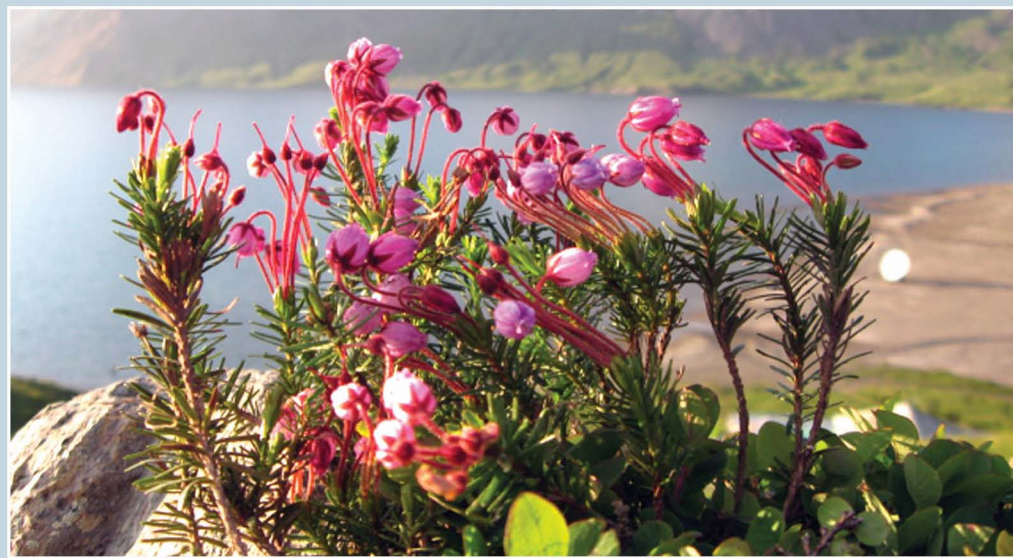
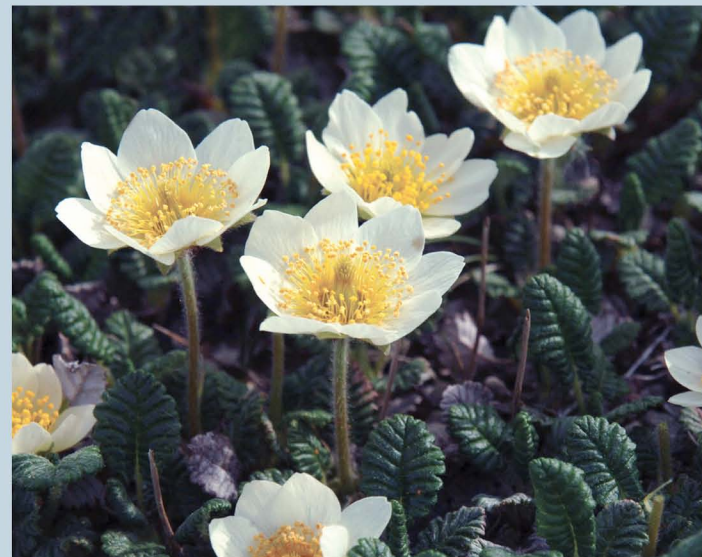
白頭山の温泉

白頭山天池の湖畔には3つの火山性温泉がある。

白頭温泉は、将軍峰西側の湖畔にある平均水温53℃の重炭酸ナトリウム泉である。楽園温泉（水温52. 5℃）は楽園峰東側の湖畔に、白岩温泉（水温46℃）は天文峰南西側の湖畔にあり、いずれも重炭酸ナトリウム泉である。

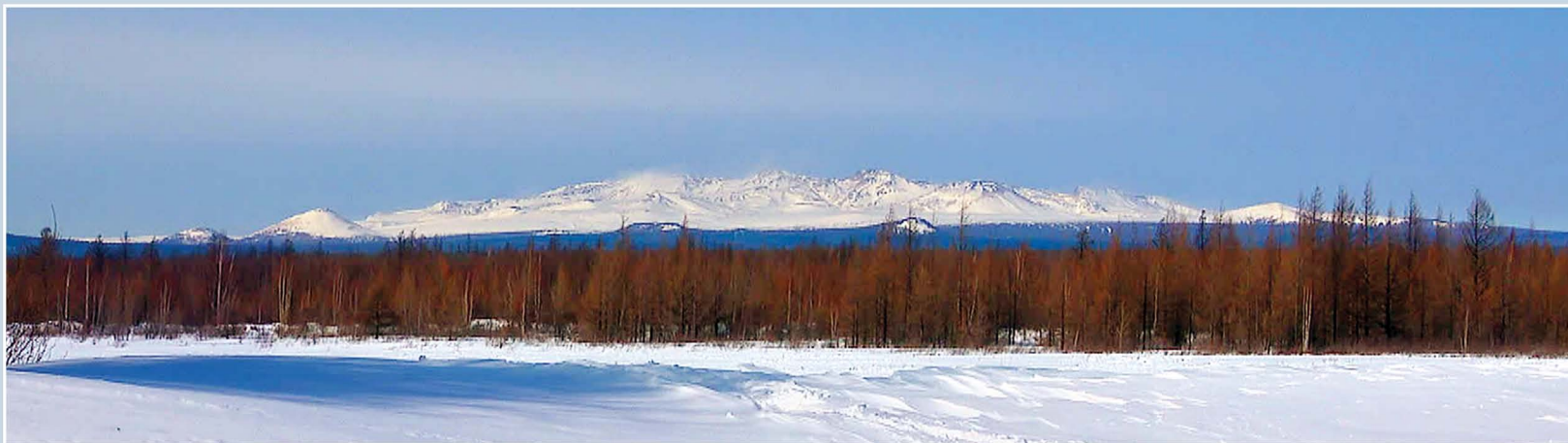
白頭山の北側斜面を流れ落ちる天池の滝の下には長白温泉がある。

白頭山生物圏保護区

白頭山地区には、チュチェ78(1989)年にユネスコ(国連教育科学文化機関)に登録された白頭山生物圏保護区があり、この他にもウォンボン湖自然公園、大興動物保護区、胞胎山動物保護区、東渓水イワナ特別保護区、白岩カンジャン沼植物保護区、大紅丹クロフネツツジ保護区などの自然保護区がある。

白頭山天池に育つ植物の一部

白頭山地区に育つ植物の一部

白頭山地区に棲息する動物の一部

白頭山地区に棲息する動物の一部

白頭風景

編集・文： 金明楠
写　真：弘　勲、卞賛宇、孔兪一、金成鉄、宋大赫、金赫哲、洪光楠
金勇楠、李英楠、崔哲敏、李英日、金英楠、姜義成、金忠誠

発　行： 外国文出版社
発行日： チュチェ111(2022)年1月

朝鮮民主主義人民共和国・外国文出版社
チュチェ111(2022)